

平成21年度
がん治療高度専門家養成プログラム
履修要項



東京医科歯科大学

目 次

プログラム修了の要件並びに履修方法	1
時間割	4
がん専門医養成コース	
総合基礎	
がんの分子生物学概論	8
がんの細胞生物学概論	10
がんの病理・病態学概論	12
がんの患者学	14
がん患者学演習	16
がんの社会医学概論	18
がんのシステム生物学概論	20
総合発展	
頭頸部がんの診療	22
臓器別がんの診療－1	24
臓器別がんの診療－2	26
臓器別がんの診療－3	28
化学療法	
抗がん剤薬理学Ⅰ・Ⅱ	30
緩和基礎	
緩和医療学概論	32
精神腫瘍学特論	34
緩和医療における身体症状論	36
緩和応用	
疼痛マネジメント(基本編)	38
疼痛マネジメント(応用編)	40
緩和医療におけるリエゾン精神医学特論	42
がん治療専門看護師養成コース	
看護病態生理学	46
在宅ケア・緩和ケア看護学特論A－1	48
在宅ケア・緩和ケア看護学特論A－2	50
在宅ケア・緩和ケア看護学演習A	52
在宅ケア・緩和ケア看護学特論B	54
在宅ケア・緩和ケア看護学演習B	56
在宅ケア・緩和ケア看護学実習	58
専攻教育課程照合表	60
放射線療法専門医師養成コース・医学物理士養成コース・	
放射線治療品質管理士養成コース	
科目一覧表	63
本学構内案内図	64

プログラム修了の要件並びに履修方法

1. 修了の要件

・がん専門医師養成コース

放射線療法専門医師養成コース

放射線療法専門医師養成コースに設定された講義および演習の必修科目全体の3／4以上の科目において単位を取得し、かつ設定された実習において単位を取得した場合に、本コースのプログラムを修了したものとする。ただしそれまでの履修実績などを勘案し指導教員が本プログラムにおいて単位取得の必要がないと判断した科目については、必須要件から除外することができる。なお、本コースを履修する学生が属する課程については、本プログラムの取得単位を含めて課程が求める単位数以上を修得し、かつ必要な論文指導を受けた上で、医歯学総合研究科が行う論文の審査及び最終試験に合格することが修了要件となる。

化学療法専門医師養成コース

化学療法専門医師養成コースに設定された講義および演習の必修科目全体の3／4以上の科目において単位を取得し、かつ設定された実習において単位を取得した場合に、本コースのプログラムを修了したものとする。ただしそれまでの履修実績などを勘案し指導教員が本プログラムにおいて単位取得の必要がないと判断した科目については、必須要件から除外することができる。なお、本コースを履修する学生が属する課程については、本プログラムの取得単位を含めて課程が求める単位数以上を修得し、かつ必要な論文指導を受けた上で、医歯学総合研究科が行う論文の審査及び最終試験に合格することが修了要件となる。

緩和ケア専門医師養成コース

緩和ケア専門医師養成コースに設定された講義および演習の必修科目全体の3／4以上の科目において単位を取得し、かつ設定された実習において単位を取得した場合に、本コースのプログラムを修了したものとする。ただしそれまでの履修実績などを勘案し指導教員が本プログラムにおいて単位取得の必要がないと判断した科目については、必須要件から除外することができる。なお、本コースを履修する学生が属する課程については、本プログラムの取得単位を含めて課程が求める単位数以上を修得し、かつ必要な論文指導を受けた上で、医歯学総合研究科が行う論文の審査及び最終試験に合格することが修了要件となる。

・コメディカルコース

がん専門看護師養成コース

保健衛生学研究科博士課程において、がん看護専門看護師履修要件である科目26単

位を含め学生が属する課程の修了要件単位数を履修し、かつ必要な論文指導を受けた上で、保健衛生学研究科が行う論文の審査及び最終試験に合格することが修了要件となる。

医学物理士養成コース

医学物理士養成コースに設定された講義および演習の必修科目全体の3／4以上の科目において単位を取得した場合に、本コースのプログラムを修了したものとする。なお、本コースを履修する学生が属する課程については、本プログラムでの取得単位を含めて課程が求める修了要件に従うものとする。

放射線治療品質管理士養成コース

放射線治療品質管理士養成コースに設定された講義および演習の必修科目全体の3／4以上の科目において単位を取得した場合に、本コースのプログラムを修了したものとする。なお、本コースを履修する学生が属する課程については、本プログラムでの取得単位を含めて課程が求める修了要件に従うものとする。

インテンシブコース

がん医療専門医師研修コース

それぞれの研修専門分野において実施される授業科目において8単位相当を受講し、成績評価を受け全てに合格すること。

研修専門分野

- ・放射線療法
- ・化学療法
- ・緩和ケア

2. 履修方法

修得すべき単位の履修方法は次による。

がん専門医師養成コース

「放射線療法専門医師養成コース」「化学療法専門医師養成コース」「緩和ケア専門医師養成コース」のそれぞれのコースの履修方法については、所定の授業科目の履修登録を医歯学総合研究科博士課程の履修登録と同様に行うものとする。

コメディカルコース

「がん専門看護師養成コース」の履修登録は、保健衛生学研究科博士(前期)課程、または博士(後期)課程の履修登録時に合わせて行うものとする。

「医学物理士養成コース」の履修については、東京工業大学の医歯工学特別コースに

おける所定の手続きによるものとする。

「放射線治療品質管理士養成コース」の所定の授業科目の履修方法は、医歯学総合研究科修士課程あるいは博士課程の履修登録時に合わせて行うものとする。

インテンシブコース

本コースについては、大学院授業とは別に定める。

3. 講義時間

がん専門医師養成コース

1 時限 18:00～19:30

2 時限 19:40～21:10

原則として上記時間帯に講義を行う。

コメディカルコース

- ・がん看護専門看護師コース

本学保健衛生学研究科の定める時間割に従うものとする。

- ・医学物理士養成コース

東京工業大学の定める時間割に従うものとする。

4. 講義室

がん専門医師養成コース

医学科講義室 I 医歯学総合研究棟（I 期）2 階

カンファレンス室 2 医歯学総合研究棟（I 期）6 階

保健衛生学大学院講義室 . . 医歯学総合研究棟（I 期）15 階

原則として、上記講義室で実施するが、都合により変更になることもあります。

日本医科大学で行う講義については日本医科大学で定める。

コメディカルコース

- ・がん看護専門看護師コース

本学保健衛生学研究科の定める講義室において実施する。

- ・医学物理士養成コース

東京工業大学 田町キャンパス CIC（キャンパスイノベーションセンター）において実施。詳細は東京工業大学で定める。

がん治療高度専門家養成プログラム時間割

ページ	科 目 名	備考	単位	科目責任者	担当教員及び日程				
					1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
がん専門医養成コース									
10	がんの細胞生物学概論	A	1	寺岡弘文 水谷修紀	4月13日	4月14日	4月15日	4月16日	4月17日
					中釜 斉	畑 裕	水谷修紀 清水重臣	高木正稔 寺岡弘文	吉岡研一 寺岡弘文
8	がんの分子生物学概論	A	1	湯浅保仁	4月20日	4月21日	4月22日	4月23日	
					秋山好光	湯浅保仁	深町博史	渋谷正史	
12	がんの病理・病態学概論	A	1	江石義信	5月11日	5月12日	5月13日	5月14日	5月15日
					江石義信 北川昌伸	小林大輔 河内 洋	明石 巧 熊谷二郎	秋田恵一	秋田恵一
20	がんのシステム生物学概論	A	1	田中 博	5月18日	5月19日	5月20日	5月21日	
					田中 博	水島 洋	小田夏奈江	下川和郎	
18	がんの社会医学概論	A+B	1	安野正道	5月25日	5月26日	5月27日	5月28日	5月29日
					中村健一	小池竜司	中山健夫	吉田雅幸	河原和夫
14	がん患者学	D	1	高橋秀実	6月1日	6月2日	6月3日	6月4日	6月5日
					高柳和江	高橋秀実	志村俊郎	高橋秀実	高柳和江
16	がん患者学演習	D	1	高橋秀実	6月8日	6月9日	6月10日	6月11日	6月12日
					高柳和江	高橋秀実	志村俊郎	高橋秀実	高柳和江
32	緩和医療学概論	A	1	松島英介 荻原隆二	6月15日	6月16日	6月17日	6月18日	6月19日
					荻原隆二	富田 伸	鈴木荘一	小池真理子	松下年子
34	精神腫瘍学特論	A	1	松島英介	6月22日	6月23日	6月24日	6月25日	6月26日
					松島英介	野口 海 松島英介	織田健司	清水 研	大西秀樹
36	緩和医療における身体症状論	A	1	松島英介 山田陽介	6月29日	6月30日	7月1日	7月2日	7月3日
					山田陽介	吉沢明孝	樋口比登美	伊藤恵子	山田陽介
38	疼痛マネジメント(基本編)	A	1	松島英介 山田陽介	7月6日	7月7日	7月8日	7月9日	7月10日
					下山直人	高野利実	永井英明	堀 夏樹	三枝好幸
40	疼痛マネジメント(応用編)	A	1	松島英介 山田陽介	7月13日	7月14日	7月15日	7月16日	7月17日
					行田泰明	林 章敏	山口武兼	永井英明	山田陽介 伊藤恵子
42	緩和医療におけるリエゾン精神医学特論	D	1	大久保善朗	7月21日	7月22日	7月23日	7月24日	
					上田 諭	岸 泰宏	伊藤隆雄	大久保善朗 岸 泰宏 伊藤隆雄 上田 諭	
医学物理士養成コース									
63	医歯工学概論	E	1	高瀬浩造 小杉幸夫	8月24日～8月28日				
					高瀬浩造	高瀬浩造	高瀬浩造	田中順三	小杉幸夫
	人間安全工学	E	1	小杉幸夫	(東工大と調整中)				
					小栗慶之	市村禎二郎	八木 透	宇治橋真幸	小杉幸夫
	人体機能学	E	1	高瀬浩造	8月31日～9月4日				
					宗田 大	三浦宏之	平尾見三	東條尚子	高瀬浩造
	人体解剖・病態学	E	1	江石義信 秋田恵一	9月7日～9月11日				
					山田哲夫	山本浩平	秋田恵一	秋田恵一	秋田恵一
	医用画像情報学	E	2	大山永昭	(東工大と調整中)				
					小尾高史	小尾高史	小尾高史	小尾高史	大山永昭
	放射線物理学・放射線技術学特論	E	1	伊藤 彬 保科正夫	9月14日～9月17日				
					保科正夫	保科正夫	伊藤 彬	伊藤 彬	
	医用放射線生物学	E	1	三浦雅彦	9月28日～10月2日				
					三浦雅彦	三浦雅彦	三浦雅彦	三浦雅彦	三浦雅彦
	医用放射線診断学・核医学	E	1	大橋 勇	10月5日～10月9日				
					大橋 勇	大橋 勇	大橋 勇	大橋 勇	大橋 勇
放射線治療学	E	1	渋谷 均	10月13日～10月16日					
					渋谷 均	渋谷 均	渋谷 均	渋谷 均	
放射線治療物理学	E	2	河原俊之	(東工大と調整中)					
				金井達明	金井達明	水野秀之	兼松伸幸	水野秀之	

	核医学物理学	E	1	山谷泰賀	(東工大と調整中)				
					山谷泰賀	山谷泰賀	山谷泰賀	山谷泰賀	
	医用放射線発生装置学	E	1	服部俊幸	(東工大と調整中)				
					服部俊幸	服部俊幸	小栗慶之	小栗慶之	小原 徹
	医療機器開発概論	E	1	小杉幸夫	(東工大と調整中)				
					梶川浩太郎	吉川史郎	瀬尾育弐	井出勝久	
がん専門医養成コース									
	放射線物理学・放射線技術学特論	E	1	伊藤 彬 保科正夫	9月14日～9月17日				
					保科正夫	保科正夫	伊藤 彬	伊藤 彬	
	腫瘍放射線生物学特論	E	1	三浦雅彦	9月28日～10月2日				
					三浦雅彦	三浦雅彦	三浦雅彦	三浦雅彦	三浦雅彦
	腫瘍診断学・核医学特論	E	1	大橋 勇	10月5日～10月9日				
					大橋 勇	大橋 勇	大橋 勇	大橋 勇	大橋 勇
	腫瘍放射線治療学特論	E	1	渋谷 均	10月13日～10月16日				
						渋谷 均	渋谷 均	渋谷 均	渋谷 均
30	抗がん剤薬理学Ⅰ・Ⅱ	A	2	安原真人	10月26日	10月27日	10月28日	10月29日	
					安原真人	岡田弘晃	林 良雄	小竹良彦	
					11月2日	11月4日	11月5日	11月6日	
					玉井郁巳	三木義男	谷川原祐介	大杉義征	
22	頭頸部がんの診療	A	1	岸本誠司	11月24日	11月25日	11月26日	11月27日	
					岸本誠司 横山純吉	岸本誠司 鎌田信悦	渋谷 均 天笠光雄	谷口 尚 小村 健	
24	臓器別がんの診療-1	A	1	三浦 修	11月30日	12月1日	12月2日	12月3日	
					青柳 傑 唐澤克之	水谷修紀	新井文子	新井文子 小口正彦	
26	臓器別がんの診療-2	A	1	有井滋樹	12月7日	12月8日	12月9日	12月10日	
					藤井ゆみ 渋谷 均	中島康晃 伊藤芳紀	井ノ口幹人 植竹宏之	有井滋樹 田中真二	
28	臓器別がんの診療-3	A	1	久保田俊郎	12月14日	12月15日	12月16日	12月17日	12月18日
					川上 理 林 敬二	久保田俊郎 吉村亮一	佐藤隆宣 林 敬二	阿江啓介 西澤 綾	大友康裕
	最先端がん治療のトピックス	A	1	三浦雅彦 安野正道	授 業 日 は 未 定				
					水沼信之 小嶋一幸	伊丹純 向山雄人	辻井博彦 徳植公一	根本建二 秋山秀樹	がん免疫 (人選中)
がん治療専門看護師養成コース									
46	看護病態生理学	C	2	本田彰子 山崎智子	前期 木曜日 IV時限 4月9日～7月23日				
48	在宅ケア・緩和ケア看護学特論A-1	C	2	本田彰子 山崎智子	前期 月曜日 I II時限 6月1日～7月27日				
50	在宅ケア・緩和ケア看護学特論A-2	C	2	本田彰子 山崎智子	前期 金曜日 I II時限 4月10日～6月5日				
52	在宅ケア・緩和ケア看護学演習A	C	2	本田彰子 山崎智子	後期 火曜日 III IV時限 10月6日～2月2日				
54	在宅ケア・緩和ケア看護学特論B	C	2	本田彰子 山崎智子	後期 月曜日 III時限 10月5日～2月22日				
56	在宅ケア・緩和ケア看護学演習B	C	2	本田彰子 山崎智子	後期 月曜日 IV V時限 日程は未定				

がん治療高度専門家養成プログラム授業科目一覧

種別	科 目 名	備考	単位	専門医師			コメディカル			インテンシブ候補科目
				放射線専門医師	化学療法専門医師	緩和医療専門医師	がん看護CNS	医学物理士	放射線治療品質管理士	
総合基礎	がんの分子生物学概論	A	1	●	●	○		○	●	★
	がんの細胞生物学概論	A	1	●	●	○		○	●	★
	がんの病理・病態学概論	A	1	●	●	○	○			★
	がん患者学	D	1	●	●	●				★
	がん患者学演習	D	1	○	○	○				
	がんの社会医学概論	A+B	1	○	○	○				★
	がんのシステム生物学概論	A	1	○	○	○				
総合演習	がん治療総合演習	A	2				○	○	○	
発総展合	頭頸部がんの診療	A	1	○	○	○				★
	臓器別がんの診療-1	A	1	○	○	○				★
	臓器別がんの診療-2	A	1	○	○	○				★
	臓器別がんの診療-3	A	1	○	○	○				★
	最先端がん治療のトピックス	A	1	○	○	○		○	○	★
放射線基礎	放射線物理学・放射線技術学特論	E	1	●						★
	腫瘍放射線生物学特論	E	1	●						★
	腫瘍診断学・核医学特論	E	1	○						★
放射線応用	腫瘍放射線治療学特論	E	1	●						★
	放射線治療計画演習	A	1	●						
療法化学	抗がん剤薬理学Ⅰ・Ⅱ	A	2		●					★
	化学療法治療計画演習 1	A	2		○					
	化学療法治療計画演習 2	A	2		○					
基礎緩和	緩和医療学概論	A	1			●				★
	精神腫瘍学特論	A	1			●				★
	緩和医療における身体症状論	A	1			●				★
緩和応用	疼痛マネジメント（基本編）	A	1			●				★
	疼痛マネジメント（応用編）	A	1			●				★
	緩和医療におけるリyezん精神医学特論	D	1	○	○	○				
CNS共通科目	看護研究法特論	C	2				●			
	看護教育学特論Ⅱ	C	2				●			
	看護政策学特論	C	2				●			
	看護管理学特論	C	2				●			
CNS専門科目（がん看護）	在宅ケア・緩和ケア看護学特論A-1	C	2				●			
	在宅ケア・緩和ケア看護学特論A-2	C	2				●			
	看護病態生理学	C	2				●			
	在宅ケア・緩和ケア看護学演習A	C	2				●			
	在宅ケア・緩和ケア看護学特論B	C	2				●			
	在宅ケア・緩和ケア看護学演習B	C	2				●			
MME基礎	医歯工学概論	E	1					●	●	
	人間安全工学	E	1					●	●	
	人体機能学	E	1					●	○	
	人体解剖・病態学	E	1					●	○	
MME医学物理	医用画像情報学	E	2					●	○	
	放射線物理学・放射線技術学特論	E	1					●	○	
	医用放射線生物学	E	1					●	●	
	医用放射線診断学・核医学	E	1					●	○	
	放射線治療学	E	1					●	●	
	放射線治療物理学	E	2					●	●	
	核医学物理学	E	1					●	●	
	医用放射線発生装置学	E	1					●	●	
	医療機器開発概論	E	1					●		
	放射線医療実習	D	1						●	
放射線治療	放射線治療計画演習	A/E	2					●	●	
実務	放射線治療品質管理学演習	A	2						●	
病院実習	がん放射線療法病院実習		24	●						
	がん化学療法病院実習		24		●					
	緩和ケア病院実習		24			●				
	在宅ケア・緩和ケア看護学実習		6				●			
	放射線測定実習		1					●	●	
	放射線病院実習		6					○	●	

● 必修科目
○ 選択必修科目

がん専門医養成コース

がんプロシラバス

種別：総合基礎

科目名：がんの分子生物学概論

科目担当責任教員：

湯浅保仁 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
分子腫瘍医学分野教授

科目担当教員：秋山好光 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
分子腫瘍医学分野講師

深町博史 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
分子腫瘍医学分野講師

渋谷正史 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
分子腫瘍医学分野客員教授（東京大学名誉教授）

授業予定月日：平成21年4月20－23日

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- がん遺伝子とがん抑制遺伝子の機能、およびがん発症におけるそれら遺伝子の異常について理解する。
- 発がん物質、がん化に関連する感染症、遺伝性がんについて理解する。
- がんの分化制御因子と、分化誘導療法について理解する。
- がんと血管の関わり、およびがんの血管新生阻害療法について理解する。

(2) 授業の概要

発がんの分子機構の理解に重要ながん遺伝子とがん抑制遺伝子の種類および機能的役割について説明する。さらに、これらの遺伝子のヒトがんにおける異常や検出法、発がん物質・分化・血管新生などとの関連について解説する。また、がんの増殖・悪性化における血管新生の意義、分化誘導療法の有用性についても述べる。

2) 授業計画

4月20日（担当：秋山）がん遺伝子とがん抑制遺伝子

4月21日（担当：湯浅）発がん物質、がん化に関連する感染症、遺伝性がん

4月22日（担当：深町）がんと分化

4月23日（担当：渋谷）がんと血管新生

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし

(2) 他の授業科目との関連性

がんの分子生物学のトピックスは、発がん過程だけでなく、最新のがん治療とも関連が深い。

(3) その他

4) 学生への評価方法

出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

ワインバーグ著、武藤誠他訳「がんの生物学」南江堂 2008 年出版：
R.A.Weinberg 著「The biology of cancer」Garland Science, 2007 の日本語訳である。がん関連遺伝子、がんウイルス、シグナル伝達、細胞増殖、血管新生、転移、がん免疫などがんの基礎的知見についてわかりやすく網羅している好著である。

日本語では、いくつかの雑誌（「実験医学」、「細胞工学」、「蛋白質・核酸・酵素」など）の特集

や、その他の総説集は、理解の参考になる。

6) ハンドアウトの有無

有り

7) 講義で使用するメディアの種別

PC + プロジェクター

連絡先メールアドレス：yuasa.monc@tmd.ac.jp

がんプロシラバス

種別：総合基礎

科目名：がんの細胞生物学概論

科目担当責任教員：寺岡弘文 東京医科歯科大学難治疾患研究所
病態生化学分野 教授

水谷修紀 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
発生発達病態学分野 教授

科目担当教員：中釜 斉 国立がんセンター研究所 副所長

畑 裕 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
病態代謝解析学分野 教授

清水重臣 東京医科歯科大学難治疾患研究所
病態細胞生物学分野 教授

高木正稔 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
発生発達病態学分野 助教

吉岡研一 国立がんセンター研究所生化学部
主任研究官

授業予定月日：平成21年4月13日－17日

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ☐ 細胞形態から物質代謝・エネルギー代謝も含め、正常細胞との違いに基づいて、がん細胞の特性を理解する。
- ☐ がんで最も深刻な転移について、細胞接着や細胞極性の基本的知識を基盤にして理解する。
- ☐ 年長者のがんに比較して、その治療や予後が異なる遺伝性・弧発性の小児がんについて基本知識を習得し、その生物学的特徴を理解する。
- ☐ 細胞の運命に直結する、細胞死・細胞の寿命、細胞増殖・細胞周期、DNA損傷修復について、特にがんとの関係を重点に理解する。
- ☐ 細胞の形質転換に関する定説・新説、ならびに、がん幹細胞や関連するES細胞・iPS細胞について理解する。

(2) 授業の概要

生命の基本単位である細胞について、正常細胞とがん細胞の違いを重点に解説する。また、細胞の運命（増殖、分化、細胞死、形質転換）に関して、細胞周期、DNA 損傷応答・修復も含め、最新の知見にも言及する。

2) 授業計画

- 4月13日（担当：中釜）がん細胞の特性
- 4月14日（担当：畑）細胞接着とがんの転移
- 4月15日（1時限担当：水谷）小児がん—遺伝性と弧発性
（2時限担当：清水）がん細胞と細胞死・細胞の寿命
- 4月16日（1時限担当：高木）がんと細胞周期
（2時限担当：寺岡）DNA 損傷応答・DNA 修復とがん
- 4月17日（1時限担当：吉岡）細胞の形質転換機構とがん化の防御、
（2時限担当：寺岡）がん幹細胞と万能幹細胞

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特にはないが、細胞について基礎的なことは理解しておくこと。

(2) 他の授業科目との関連性

がんの分子生物学概論と関連する。

(3) その他

4) 学生への評価方法

出席状況とレポート、あるいは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

特になし。

6) ハンドアウトの有無

有り。

7) 講義で使用するメディアの種別

PC + プロジェクター

がんプロシラバス

種別：総合基礎

科目名：がんの病理・病態学概論

科目担当責任教員：江石義信 東京医科歯科大学医歯学総合研究科
人体病理学分野教授

科目担当教員： 北川昌伸 東京医科歯科大学医歯学総合研究科
包括病理学分野教授

明石 巧 東京医科歯科大学医歯学総合研究科
病理診断科学分野准教授

熊谷二郎 東京医科歯科大学医歯学総合研究科
人体病理学分野助教

河内 洋 東京医科歯科大学医歯学総合研究科
病理診断科学分野助教

小林大輔 東京医科歯科大学医歯学総合研究科
人体病理学分野助教

秋田恵一 東京医科歯科大学医歯学総合研究科
臨床解剖学分野准教授

授業予定月日：平成21年5月11日－15日

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ・医療における癌の病理診断（良性と悪性、浸潤や転移）について、その方法と診断までの過程について理解する。
- ・癌の悪性度判断の重要性について、治療法との関連において理解する。
- ・早期癌の診断と治療について、進行癌との対比において理解する。
- ・治療による癌病巣の変化について理解する。
- ・癌の転移経路となるリンパ行路について理解する。
- ・癌の動注療法に用いられる動脈配置について理解する。

(2) 授業の概要

医療における病理診断の実例を題材として、癌の良性悪性、浸潤や転移がど

のように観察され、診断されているのかを解説する。また一口に癌と言っても悪性度は様々であり、それによって治療方針なども異なるので、病理の立場からその情報が臨床の現場でどのように行かされているのかを解説する。

わが国は癌の早期診断が進歩しており、諸外国に比べ早期癌の診断・治療の機会が多いので、実例を示しながらその診断と治療について解説する。

化学療法や放射線治療によって癌の病巣はどのように変化するのかについて解説し、さらに各臓器に発生する癌の姿はどのように異なるかについて、その発生母地の違いの観点から解説する。

さらに解剖学的観点から、癌治療ならびに癌の転移の理解に必要な、脈管系を中心とした解剖学について解説する。

2) 授業計画

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 5月11日（担当：江石、北川） | 癌の良性悪性診断、癌の浸潤と転移 |
| 5月12日（担当：小林、河内） | 癌の異型度と悪性度、早期癌と進行癌 |
| 5月13日（担当：明石、熊谷） | 癌と治療効果、癌の発生部位と多様性 |
| 5月14日（担当：秋田） | 胸腹部ならびに骨盤部の動脈配置 |
| 5月15日（担当：秋田） | 胸腹部ならびに骨盤部のリンパ系の解剖学 |

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

解剖学、組織学

(2) 他の授業科目との関連性

癌の発生や進展の基礎について、細胞生物学総論、分子生物学概論の内容と関連する。

(3) その他

4) 学生への評価方法

出席状況、および授業の最後に行う小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

特になし

6) ハンドアウトの有無

特になし

7) 講義で使用するメディアの種別

PC+プロジェクター

がんプロシラバス

種別： 総合基礎

科目名：がん患者学

科目担当責任教員：高橋秀実 日本医科大学微生物免疫学講座 教授
日本医科大学附属病院東洋医学科 部長

科目担当教員： 高橋秀実 日本医科大学微生物学免疫学講座 主任教授
日本医科大学附属病院東洋医学科 部長
志村俊郎 日本医科大学教育推進室 室長・教授
高柳和江 日本医科大学教育推進室 非常勤講師

授業予定月日：平成21年6月1日～5日

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

がん患者に内在する自然治癒力、自己治癒力を高めるための方策を理解する。
そのための体内免疫システムの概要、その活性化を目的とした補完代替医療
として東洋医学の基礎を理解する。

(2) 授業の概要

がん患者に内在する免疫システム、特に自然免疫システムと獲得免疫システムとの概要を教示するとともに、自然治癒力の基礎について解説する。また、
こうした力を高めるための癒しの環境および補完代替医療としての東洋医学
の原理・原則を概説する。

2) 授業計画

6月1日（月）	高柳和江	内なる治癒力
2日（火）	高橋秀実	免疫システムと自然治癒力
3日（水）	志村俊郎	インフォームド・コンセント
4日（木）	高橋秀実	東洋医学の実体
5日（金）	高柳和江	癒しの環境

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし

(2) 他の授業科目との関連性

がん患者さんに対する緩和ケアを実践するためにも、がん患者学演習は是非学んで欲しい。

(3) その他

4) 学生への評価方法

出席、レポート、授業態度

5) 教科書・参考書など

リピンコット免疫学（丸善出版）

かしこくなる患者学（放送教育出版会）

患者による医療（放送教育出版会）

生きる歓び☆アゲイン（医歯薬出版）

ペイシャンツ・アイズ（日経B P）

医療の質（日本評論社）

代替療法の医学的証拠（泉書房）

内なる治癒力（創元社）

人間医療学（南山堂）

ブラック微生物学（丸善出版）

6) ハンドアウトの有無

あり

7) 講義で使用するメディアの種別

PC+プロジェクター

ハンドマイク

がんプロシラバス

種別： 総合基礎

科目名：がん患者学演習

科目担当責任教員：高橋秀実 日本医科大学微生物免疫学講座 教授
日本医科大学附属病院東洋医学科 部長

科目担当教員： 高橋秀実 日本医科大学微生物学免疫学講座 主任教授
日本医科大学附属病院東洋医学科 部長
志村俊郎 日本医科大学教育推進室 室長・教授
高柳和江 日本医科大学教育推進室 非常勤講師

授業予定月日：平成21年6月8日～12日

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

がん患者の内なる治癒力を高めるためのコミュニケーション学および、補完代替医療としての東洋医学、ことに鍼灸治療ならびに生薬を用いた湯液治療の実際を理解する。

(2) 授業の概要

がん患者に内在する自己治癒力を高めるため、模擬患者を加えたコミュニケーション実習を行なう。また、告知、サポート、再発の告知等に際した伝達手法を理解する。そのためにビデオ学習も取り入れ、がん患者サポート体制の実際を理解するとともに、補完代替医療としての東洋医学で用いる鍼灸治療ならびに生薬を用いた湯液治療を実習する。

2) 授業計画

6月8日(月)	高柳和江	医師－患者関係(1)
9日(火)	高橋秀実	鍼灸治療演習
10日(水)	志村俊郎	SPを交えた患者実習

1 1 日（木） 高橋秀実 湯液治療演習
1 2 日（金） 高柳和江 医師－患者関係（2）

1) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし

(2) 他の授業科目との関連性

がん患者学

(3) その他

2) 学生への評価方法

出席、レポート、授業態度

3) 教科書・参考書など

漢薬の臨床応用（医歯薬出版）

針灸経穴辞典（東洋学術出版）

がん医療におけるコミュニケーション・スキル

悪い知らせをどう伝えるか（医学書院）

死に方のコツ（小学館文庫）

事例で学ぶ医療コミュニケーション・スキル（西村書店）

メディカル・インタビュー（メディカル・サイエンス・インターナショナル）

4) ハンドアウトの有無

あり

5) 講義で使用するメディアの種別

PC＋プロジェクター

ハンドマイク

がんプロシラバス

種 別：総合基礎

科目名：がんの社会医学概論

科目担当責任教員： 安野正道 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
腫瘍外科学分野 特任准教授

科目担当教員：

- ① 疫学 中山健夫 京都大学大学院健康情報学教授
- ② 統計 中村健一 国立がんセンターがん対策情報センター
- ③ 倫理学 吉田雅幸 東京医科歯科大学生命倫理研究センター
特任教授
- ④ がん地域医療計画 河原和夫 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
政策科学分野教授
- ⑤ 治験と臨床試験 小池竜司 東京医科歯科大学臨床試験管理センター准教授

授業予定月日：平成20年5月25日～29日

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ① 疫学の基本的考え方・方法論を理解し、臨床・研究・健康政策の検討に活用する基礎を学ぶ。
- ② 医療統計の基礎と臨床研究・治験を行うために必要な統計学を理解する。
- ③ 臨床研究・治験を行う際に理解しておくべき倫理学を学ぶ。
- ④ 地域医療計画、特にがんに関する医療計画を学ぶ。
- ⑤ 治験・臨床試験に関する基本的法規・規制および倫理的指針を理解し、その計画・実施・評価に関する基本的知識を習得する。

(2) 授業の概要

- ① 疫学の基本的な考え方である、母集団、バイアス、交絡、比較などを解説し、疫学研究の方法論として記述疫学、観察疫学（コホート研究、症例対照研究）、介入研究などの実例を紹介する。
- ② 臨床研究・治験に必要な医療統計学の理論と実際を講義する。
- ③ 臨床研究・治験を行う際に、留意すべき倫理的問題について解説する。

- ④ 地域医療計画の概要と、がんに関する医療計画の政策策定および実施計画について解説する。
- ⑤ 治験・臨床試験を計画・評価するために必要な知識を解説する。さらにがん治療に関する治験・臨床試験の特徴や問題点、新規試験の計画や実臨床への応用についても解説する。

2) 授業計画

- ① 5月25日 (担当：中村) 統計
- ② 5月26日 (担当：小池) 治験と臨床研究
- ③ 5月27日 (担当：中山) 疫学
- ④ 5月28日 (担当：吉田) 倫理学
- ⑤ 5月29日 (担当：河原) がんの地域医療計画

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし。

(2) 他の授業科目との関連性

社会医学は臨床研究、Evidence-based medicine (EBM) の基盤であり、他科目と密接に関係している。

(3) その他

4) 教科書・参考書など

(以下購入の必要はなし)

- ① 中村好一著 基礎から学ぶ楽しい疫学 (医学書院)、青山英康監修 今日の疫学 (第2版) (医学書院) 川村孝著 エビデンスをつくる (医学書院)、J Last. A Dictionary of Epidemiology (4th ed). (Oxford University Press) (日本疫学会 疫学辞典 第3版 日本公衆衛生協会)

5) ハンドアウトの有無

スライド資料を当日配布。

6) 講義で使用するメディアの種別

パワーポイント。

がんプロシラバス

種 別：総合基礎

科目名：がんのシステム生物学概論

科目担当責任教員：

田中博 大学院疾患生命科学研究部教授
東京医科歯科大学情報医科学センター長

科目担当教員：

田中博 大学院疾患生命科学研究部教授
東京医科歯科大学情報医科学センター長
水島洋 東京医科歯科大学情報医科学センター
特任准教授
小田夏奈江 東京医科歯科大学情報医科学センター 特任講師
下川和郎 東京医科歯科大学情報医科学センター 特任講師

授業予定月日：平成21年5月18日～21日

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- システム生物学、オミックス情報学の基本的概念について理解する。
- がんにおけるゲノム異常、遺伝子発現異常などの実例を学ぶ
- がんの遺伝子発現解析について、パスウェイマップ等を用いて解析する手法を学ぶ

(2) 授業の概要

近年の網羅的分子計測法の発展により、ゲノム情報のみならず、トランスクリプトーム・プロテオームなどの各手法において、ハイスループットな解析が可能になった。これらの網羅的分子情報は、オミックス情報と総称される。オミックス情報は、これまでの臨床情報や病理情報、あるいは生活習慣環境情報と関連付けることによって、分子から個体レベルまで総体として疾患のメカニズムを理解できるだけでなく、従来にはない精度で疾

患の経過、重症化、予後を予測できると期待されている。

こうしたシステム生物学、オミックス情報学の基本的概念とがんの診断や治療における個別化、およびがんの予防における有用性について概説する。

2) 授業計画

5月18日（担当：田中）	がんのシステム生物学概論
5月19日（担当：水島）	がんのオミックス解析とゲノム疫学
5月20日（担当：小田）	がんのパスウェイマップによる解析
5月21日（担当：下川）	がんの遺伝子発現データ解析

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

がんに関する分子生物学的な研究の概要を理解していることが望ましい

(2) 他の授業科目との関連性

他の総合基礎科目ならびに最先端がん治療のトピックスは関連が深く、是非受講して頂きたい。

(3) その他

これからの時代のがん臨床研究に興味ある学生の聴講を期待する。

4) 学生への評価方法

出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

授業において紹介する

6) ハンドアウトの有無

有り

7) 講義で使用するメディアの種別

PC+プロジェクター

がんプロシラバス

種別：総合発展

科目名：頭頸部がんの診療

科目担当責任教員：

岸本誠司 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
頭頸部外科学分野教授

科目担当教員：横山純吉 順天堂大学耳鼻咽喉科准教授

鎌田信悦 国立医療福祉大学三田病院
頭頸部腫瘍センターセンター長，大学副院長

渋谷均 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
腫瘍放射線医学分野教授

谷口尚 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
顎顔面補綴学分野教授

天笠光雄 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
顎顔面外科学分野教授

小村健 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
顎口腔外科学分野教授

授業予定月日：平成21年11月24－27日

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- 頭頸部がんにおける TNM 病期分類、病期の決定法、各病期の標準的治療、および合併症の管理について理解する。
- 頭頸部がんにおける放射線診断、核医学診断の適応について理解する。
- 頭頸部がんにおける集学的治療の重要性について理解する。
- 機能や形態を考慮した頭頸部がん治療法について理解する。

(2) 授業の概要

頭頸部領域がん（聴器、鼻副鼻腔、口腔、顔面、上中下咽頭、喉頭、頸部食道、

頸部など)における、機能や形態を考慮した外科的療法、さらに放射線療法や化学療法を組み合わせた集学的治療について解説する。また、口腔、中咽頭がんに対する低線量率小線源治療の有用性と臨床の実際について講述し、その際に利用される補綴装置の意義や術後のエピテーゼについても言及する。

2) 授業計画

- | | |
|-------------------------|-------------------------------|
| 1 1 月 2 4 日 (担当: 岸本、横山) | (1)頭頸部がんの外科療法、他 |
| 1 1 月 2 5 日 (担当: 岸本、鎌田) | (2)頭蓋底・顔面深部の外科、他 |
| 1 1 月 2 6 日 (担当: 渋谷、天笠) | 口腔、中咽頭がんの小線源治療、
口腔がんの前がん病変 |
| 1 1 月 2 7 日 (担当: 谷口、小村) | エピテーゼ、口腔がんの集学的治療 |

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし

(2) 他の授業科目との関連性

最先端がん治療のトピックスは関連が深く、是非受講して頂きたい。

(3) その他

4) 学生への評価方法

出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

特になし

6) ハンドアウトの有無

有り

7) 講義で使用するメディアの種別

PC + プロジェクター

がんプロシラバス

種別： 総合発展

科目名： 臓器別がんの診療-1

科目担当責任教員：三浦 修 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
血液内科学分野教授

科目担当教員：青柳 傑 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
脳神経機能外科学分野准教授

唐澤克之 東京都立駒込病院放射線診療科部長

水谷修紀 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
発生発達病態学分野教授

新井文子 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
血液内科学分野講師

小口正彦 癌研有明病院放射線治療科副部長

授業予定日：平成21年11月30－12月3日

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

脳腫瘍・小児がん・造血器腫瘍（白血病、悪性リンパ腫）に対する標準的治療法ならびに集学的治療法の原理と実際について理解する。

(2) 授業の概要

脳腫瘍・小児がん・造血器腫瘍（白血病、悪性リンパ腫）の分類、病態、診断法につき概説し、外科的療法、放射線療法、化学療法、さらにそれらを組み合わせた集学的治療について説明し、それらの適応、目標、有用性についても述べる。また、最近の臨床研究についても言及する。

2) 授業計画

11月30日（担当：青柳、唐澤）脳腫瘍の診療

12月 1日（担当：水谷）小児がんの診療

1 2 月 2 日（担当：新井）白血病の診療

1 2 月 3 日（担当：新井、小口）悪性リンパ腫の診療

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし

(2) 他の授業科目との関連性

抗がん剤薬理学Ⅰ・Ⅱ、最先端がん治療のトピックスは関連が深く、是非受講して頂きたい。

(3) その他

4) 教科書・参考書など

特になし

5) ハンドアウトの有無

あり

6) 講義で使用するメディアの種別

PC+プロジェクター

がんプロシラバス

種別： 総合発展

科目名： 臓器別がんの診療-2

科目担当責任教員：有井滋樹 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
肝胆膵・総合外科学分野教授

科目担当教員：渋谷均	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 腫瘍放射線医学分野教授
藤井ゆみ	東京医科歯科大学医学部附属病院呼吸器内科 特任助教
中島康晃	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 救命救急医学分野助教
伊藤芳紀	国立がんセンター中央病院放射線治療グループ
井ノ口幹人	東京医科歯科大学医学部附属病院 食道胃外科助教
植竹宏之	東京医科歯科大学寄付講座応用腫瘍学講座
有井滋樹	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 肝胆膵・総合外科学分野教授
田中真二	東京医科歯科大学医学部附属病院肝胆膵外科助教

授業予定日：平成21年12月7-10日

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- 肺がん、消化器がん、肝胆膵がんにおける TNM 病期分類、病期の決定法、各病期の標準的治療、および合併症の管理について理解する。
- 肺がん、消化器がん、肝胆膵がんにおける放射線診断、核医学診断の適応について理解する。
- 肺がん、消化器がん、肝胆膵がんにおける集学的治療の重要性について理解する。

(2) 授業の概要

肺がん、消化器がん、肝胆膵がんにおける外科的療法、放射線療法、化学療法、さらにそれらを組み合わせた集学的治療について、最近の臨床研究の結果を含め解説する。消化器がんについては、早期がんに対する内視鏡治療、標準的な開腹手術療法や腹腔鏡手術、切除不能・再発がんに対する化学療法やその他の集学的治療法についても言及する。

2) 授業計画

- 1 2月7日（担当：藤井、渋谷）肺がんの診療
- 1 2月8日（担当：中島、伊藤）食道がんの診療
- 1 2月9日（担当：井ノ口、植竹）胃がん、大腸がんの診療
- 1 2月10日（担当：有井、田中）肝胆膵がんの診療

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし

(2) 他の授業科目との関連性

抗がん剤薬理学Ⅰ・Ⅱ、最先端がん治療のトピックスは関連が深く、是非受講して頂きたい。

(3) その他

4) 教科書・参考書など

特になし

5) ハンドアウトの有無

あり

6) 講義で使用するメディアの種別

PC＋プロジェクター

がんプロシラバス

種別： 総合発展

科目名： 臓器別がんの診療-3

科目担当責任教員：久保田俊郎 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
生殖機能協関学分野教授

科目担当教員：川上 理	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 泌尿器科学分野准教授
吉村亮一	国立がんセンター中央病院放射線治療グループ
佐藤隆宣	東京医科歯科大学医学部附属病院乳腺外科助教
林 敬二	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 腫瘍放射線医学分野特任助教
阿江啓介	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 整形外科学分野助教
西澤綾	東京医科歯科大学医学部附属病院皮膚科助教
大友康裕	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 救急災害医学分野教授

授業予定日：平成21年12月14-18日

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- 泌尿器がん、婦人科がん、乳がん、骨軟部腫瘍、皮膚がんにおける TNM 病期分類、病期の決定法、各病期の標準的治療、および合併症の管理について理解する。
- 泌尿器がん、婦人科がん、乳がん、骨軟部腫瘍、皮膚がんにおける放射線診断、核医学診断の適応について理解する。
- 泌尿器がん、婦人科がん、乳がん、骨軟部腫瘍、皮膚がんにおける集学的治療の重要性について理解する。
- がん救急医療の意義と重要性について理解する。

(2) 授業の概要

泌尿器がん、婦人科がん、乳がん、骨軟部腫瘍、皮膚がんにおける外科的療法、放射線療法、化学療法、さらにそれらを組み合わせた集学的治療について、最近の臨床研究の結果を含め解説する。がん救急医療の有用性と実際について講述する。

2) 授業計画

- 1 2月14日（担当：川上、林）泌尿器がんの診療
- 1 2月15日（担当：久保田、吉村）婦人科がんの診療
- 1 2月16日（担当：佐藤、林）乳がんの診療
- 1 2月17日（担当：阿江、西澤）骨軟部腫瘍、皮膚がんの診療
- 1 2月18日（担当：大友）がん救急医療

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし

(2) 他の授業科目との関連性

抗がん剤薬理学各論、最先端がん治療のトピックスは関連が深く、是非受講して頂きたい。

(3) その他

4) 教科書・参考書など

特になし

5) ハンドアウトの有無

あり

6) 講義で使用するメディアの種別

PC＋プロジェクター

がんプロシラバス

種別：化学療法

科目名：抗がん剤薬理学Ⅰ・Ⅱ

科目担当責任教員：安原真人	東京医科歯科大学医学部附属病院 薬剤部教授 (yasuhara.mpha@tmd.ac.jp)
科目担当教員：	大杉義征 中外製薬学術情報部部長
	岡田弘晃 東京薬科大学薬学部製剤設計学教授
	小竹良彦 エーザイ創薬第二研究所主幹研究員
	谷川原祐介 慶應義塾大学医学部薬剤部教授
	玉井郁巳 金沢大学医薬保健研究域薬学系 薬物動態学教授
	林 良雄 東京薬科大学薬学部薬品化学教授
	三木義男 東京医科歯科大学難治疾患研究所 分子遺伝学教授

授業予定月日：平成21年10月26日～11月6日（2週間）

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ・ 作用メカニズムに基づく抗がん剤の分類を理解し、抗体医薬や分子標的薬の具体例を学び、合理的な化学療法の設計法について考察する。
- ・ 抗がん剤の体内動態や作用に関わるトランスポーターについて学び、抗がん剤の臨床薬理を理解する。
- ・ 抗がん剤治療の最適化を目指したドラッグデリバリーシステムの概念と具体例を学ぶ。
- ・ 抗がん剤に対する感受性や副作用の有無を患者個別に予測するためのゲノム情報の活用につき学ぶ。
- ・ 新規抗がん剤の創製に向けたメディシナルケミストリーのアプローチを学ぶ。

(2) 授業の概要

アルキル化剤から分子標的治療薬まで、多様な抗がん剤の作用メカニズムを概観し、ヒト化抗体医薬や分子標的薬の開発と臨床応用の具体例を紹介する。有効性と安全性という観点から、PK/PDに基づく合理的な抗がん剤の投与設計

や具体的な抗がん剤の調製における注意点につき講述する。抗がん剤の吸収・分布・代謝・排泄や腫瘍組織への移行過程における薬物トランスポーターの関わりやその変動因子について考察する。抗がん剤の選択的な腫瘍組織への送達や薬物濃度の制御を可能とするドラッグデリバリーシステムの進歩について解説する。新規抗がん剤の創製に向けて、チューブリンを標的とする環状ペプチドを基盤とするメディシナルケミストリーのアプローチを述べる。さらに、個々のがん患者に対して最適な化学療法を提供する、いわゆるテーラーメイド医療の実現に向けた、ファーマコゲノミックスの取り組みについて講述する。

2) 授業計画

- | | | |
|-----------|-------|--------------------------|
| 10月26日(月) | (安原) | 抗がん剤薬理学概説 |
| 10月27日(火) | (岡田) | 抗がん剤のドラッグデリバリーシステム |
| 10月28日(水) | (林) | チューブリンを標的とする抗がん剤の創製 |
| 10月29日(木) | (小竹) | 分子標的薬の開発 |
| 11月 2日(月) | (玉井) | 抗がん剤とトランスポーター |
| 11月 4日(水) | (三木) | 抗がん剤のファーマコゲノミックス |
| 11月 5日(木) | (谷川原) | 抗がん剤の臨床薬理学 |
| 11月 6日(金) | (大杉) | ヒト化抗体医薬 (IL-6 受容体抗体を中心に) |

3) 授業に際し学生の留意点

- (1) 授業への準備・予習
特になし

- (2) 他の授業科目との関連性

- (3) その他

4) 学生への評価方法

出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

特になし

6) ハンドアウトの有無

有り

7) 講義で使用するメディアの種別

PC + プロジェクター

がんプロシラバス

種 別：緩和基礎

科目名：緩和医療学概論

科目担当責任教員：

松島英介	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 心療・緩和医療学分野准教授 (em.lppm@tmd.ac.jp)
荻原隆二	医療法人雪ノ聖母会 聖マリア病院理事・顧問

科目担当教員：

荻原隆二	医療法人雪ノ聖母会 聖マリア病院理事・顧問
富田 伸	旭中央病院院長補佐・緩和ケア科顧問
鈴木荘一	鈴木内科医院院長
小池眞規子	目白大学人間学部心理カウンセリング学科教授
松下年子	埼玉医科大学保健医療学部看護学科教授

授業予定日 平成21年6月15日（月）－6月19日（金）

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

緩和医療は当初治癒を目的とした医療に対して反応しなくなった、主に末期のがん患者に行われるいろいろな苦痛の緩和を基本として発展してきたが、21世紀になりWHOを初めとして病期にこだわることなく早期から実施すべき医療とされるようになった。その際に必要な患者の全体像を評価する QOL についての知識や、患者やその家族に接する際のコミュニケーション・スキルについても習得できるようにすることが目標である。

(2) 授業の概要

緩和医療について、その理念、目的、意義、歴史および実態について概観する。また、ホスピスや緩和ケア病棟での緩和ケア、在宅での緩和ケアについて、実際の臨床現場に即して解説する。さらに、緩和医療の際の最も基本である、全人的な痛みを評価するための QOL 尺度の説明や応用、および患者やその家族とのコミュニケーションについて、事例をまじえて講義を行う。

2) 授業計画

6月15日(月)	(担当：荻原) 緩和医療学入門
6月16日(火)	(担当：富田) ホスピス・緩和ケア病棟での緩和ケア
6月17日(水)	(担当：鈴木) 在宅緩和ケア

6月18日(木) (担当：小池) 緩和ケアにおけるコミュニケーション

6月19日(金) (担当：松下) 緩和ケアにおける QOL の評価

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし。

(2) 他の授業との関連性

精神腫瘍学特論との関連性が深いので是非受講して頂きたい。

(3) その他

すぐに実践できる知識を身につけることを目指している。

4) 学生への評価方法

出席状況、レポートまたは小テストによって評価する

5) 教科書・参考書など

Oxford Textbook Of Palliative Medicine (Oxford Textbook): Derek Doyle, Geoffrey WC Hanks, Nathan I. Cherny, Kenneth, Sir Calman 2005

在宅医療・介護基本手技マニュアル改訂第2版 谷亀光則編 永井書店 2005

在宅での看取りと緩和ケア 佐藤 智、鈴木荘一、村松静子編 中央法規 2008

臨床のための QOL 評価ハンドブック 池上直己ほか編 医学書院 2001

臨床面接技法－患者との出会いの技

Billings JA, Stoeckle JD 日野原重明ほか訳 医学書院 2001

メディカル・インタビュー マニュアル－医師の本領を生かすコミュニケーション技法 福井次矢 インターメディカ (第3版) 2002

患者と医師のコミュニケーション

Debra L, Hall R, Hall JA 石川ひろの他訳 篠原出版新社 2007

がん医療におけるコミュニケーション・スキル－悪い知らせをどう伝えるか 内富庸介 藤森麻衣子 医学書院 2007

SPIKES-BC 乳がん診療におけるコミュニケーション・スキルを学ぶ

Team SPIKES-BC (編纂) 時報 2007

Buckman R 恒藤暁ほか訳 診断と治療社 2000

6) ハンドアウトの有無

できるだけ用意する。

7) 講義で使用するメディアの種別

PC+プロジェクター

がんプロシラバス

種 別：緩和基礎

科目名：精神腫瘍学特論

科目担当責任教員：

松島英介 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
心療・緩和医療学分野准教授
(em.lppm@tmd.ac.jp)

科目担当教員：織田健司 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
心療・緩和医療学分野助教

清水 研 国立がんセンター中央病院 精神科

大西秀樹 埼玉医科大学病院 精神腫瘍科教授

野口 海 メンタル・コンシェルジュ代表

慶應義塾大学大学院 政策メディア研究科准教授

授業予定月日：平成21年6月22日（月）～26日（金）

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

がん患者やその家族のところに目を向け、身体的側面だけではなく精神的側面についても把握できるようにする。そのためには、がん患者の誰もが抱えるストレスから、治療が必要な精神症状まで、幅広く理解しておくことが必要である。これらをもとに、個々のがん患者に対する対応および、精神症状に対する診断や治療ができるようにする。また、患者家族や遺族の精神状態の把握や心理的介入、治療ができるようにする。

(2) 授業の概要

精神腫瘍学の意義に始まり、がん患者のストレス、コーピング・スタイル、精神症状でもよく認められる不安・抑うつ診断と治療、絶望感や自殺の問題とその対応、せん妄の診断とその対策、がん患者の家族に対する理解や対応、遺族のケア、終末期の患者のスピリチュアリティや尊厳の問題などを症例を上げながら解説し、患者を包括的、全人的に診療していく姿勢を身につけていただく。

2) 授業計画

6月22日（月）（担当：松島）精神腫瘍学入門

6月23日（火）（担当：野口、松島）終末期の精神医学的問題

6月24日（水）（担当：織田）せん妄とその対策

6月25日（木）（担当：清水）抑うつ・不安および自殺とその対応

6月26日（金）（担当：大西）家族と遺族のケア

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし

(2) 他の授業科目との関連性

前の週に開講される「緩和医療概論」は関連が深いので、是非受講していただきたい。

(3) その他

活発な質疑を期待しているので、積極的な姿勢で受講していただきたい。

4) 学生への評価方法

出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

日本サイコオンコロジー学会ホームページにある E-ラーニング

(<http://www.jpos-society.org/elearning/>)

明智龍男：がんところのケア．NHK ブックス 975, 2003 年

内富庸介監訳：緩和医療における精神医学ハンドブック．星和書店，東京，2001 年

Handbook of Psychooncology (ed Holland JC, Rowland JH), Oxford

University Press, New York, 1990. (河野博臣，濃沼信夫，神代尚芳監

訳：サイコオンコロジー第1版．メディアサイエンス社，東京，1993 年)

Psycho-Oncology (ed Holland JC), Oxford University Press, New York, 1998.

大西秀樹：がん患者の心を救う 精神腫瘍医の現場から．河出書房新社 2008 年

6) ハンドアウトの有無

できるだけ用意する。

7) 講義で使用するメディアの種別

PC+プロジェクター

がんプロシラバス

種 別：緩和基礎

科目名：緩和医療における身体症状論

科目担当責任教員：

松島英介	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 心療・緩和医療学分野准教授 (em.lppm@tmd.ac.jp)
山田陽介	都立豊島病院緩和ケア科医長 (yosuke-y@toshima-hp.metro.tokyo.jp)

科目担当教員：

伊藤恵子	都立豊島病院緩和ケア科
吉澤明孝	要町病院副院長
樋口比登実	昭和大学病院緩和ケアセンター長

授業予定日 平成21年6月29日（月）～7月3日（金）

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

がん患者に関わる医療者にとって、疼痛を初めとする様々な身体症状についての知識の習得は最も基本的なものであると同時に必須である。がん患者の訴える多彩な症状について幅広く理解し、適切な原因診断、治療ができるようにすることが目標である。

(2) 授業の概要

身体症状に対する緩和治療の意義、がん性疼痛、呼吸困難、倦怠感、浮腫等々多彩ながんに伴う症状の特徴とその対応を解説。さらに外来、一般病棟（緩和ケアチーム）、緩和ケア病棟、在宅医療の現場における身体症状への対応について具体的な事例を提示しながら解説し、疾患の全経過に関与する緩和医療のありかたについて理解を深められるよう講義を行う。

2) 授業計画

6月29日(月)	(担当：山田)	がん患者の身体症状総論
6月30日(火)	(担当：吉澤)	在宅医療における身体症状へのアプローチ
7月1日(水)	(担当：樋口)	緩和ケアチームによる身体症状へのアプローチ
7月2日(木)	(担当：伊藤)	緩和ケア病棟における身体症状へのアプローチ
7月3日(金)	(担当：山田)	身体症状へのアプローチ（事例紹介）

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし。

(2) 他の授業との関連性

緩和医療概論、精神腫瘍学特論との関連性が深いので是非受講して頂きたい。

(3) その他

すぐに実践できる知識を身につけることを目指している。

4) 学生への評価方法

出席状況、レポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

Oxford Textbook Of Palliative Medicine (Oxford Textbook): Derek Doyle, Geoffrey WC Hanks, Nathan I. Cherny, Kenneth, Sir Calman 2005

Symptom Management in Advanced Cancer: Robert G. Twycross, Andrew Wilcock 2002 (武田文和訳 トワイクロス先生のがん患者の症状マネジメント 医学書院 2003 年)

がんの痛みからの解放—WHO 方式がん疼痛治療法 世界保健機関/編 武田文和/訳 金原出版 1996 年

6) ハンドアウトの有無

できるだけ用意する。

7) 講義で使用するメディアの種別

P C + プロジェクター

がんプロシラバス

種 別：緩和応用

科目名：疼痛マネジメント（基本編）

科目担当責任教員：

松島英介 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
心療・緩和医療学分野准教授 (em.lppm@tmd.ac.jp)
山田陽介 都立豊島病院緩和ケア科医長
(yosuke-y@toshima-hp.metro.tokyo.jp)

科目担当教員：

下山直人 国立がんセンター中央病院
高野利実 帝京大学医学部附属病院腫瘍内科講師
永井英明 国立病院機構東京病院 緩和ケア病棟医長
堀 夏樹 NTT東日本関東病院
三枝好幸 聖ヶ丘病院 ホスピス長

授業予定日 平成21年7月6日（月）～7月10日（金）

1) 授業の目標・概要

（1）授業の目標

がん患者に関わる医療者にとって、疼痛を初めとする様々な身体症状についての知識の習得は最も基本的なものであると同時に必須である。がん患者の訴える多彩な症状について幅広く理解し、適切な原因診断、治療ができるようにすることが目標である。

（2）授業の概要

体性痛、内臓痛、神経因性疼痛などの疼痛についての概論にはじまり、各種がんに伴う疼痛・身体症状の実際とその対応を解説。疼痛を初めとする症状コントロールの実践的な基本知識を習得する。

2) 授業計画

7月 6 日(月) (担当：下山) 疼痛概論
7月 7 日(火) (担当：高野) 乳癌の緩和医療
7月 8 日(水) (担当：永井) がん患者の呼吸器症状
7月 9 日(木) (担当：堀) がん患者の泌尿器症状
7月10日(金) (担当：三枝) がん患者の消化器症状

- 3) 授業に際し学生の留意点
- (1) 授業への準備・予習
特になし。
 - (2) 他の授業との関連性
緩和医療における身体症状論との関連性が深いので是非受講して頂きたい。
 - (3) その他
すぐに実践できる知識を身につけることを目指している。
- 4) 学生への評価方法
出席状況、レポートまたは小テストによって評価する。
- 5) 教科書・参考書など
- Oxford Textbook Of Palliative Medicine (Oxford Textbook): Derek Doyle, Geoffrey WC Hanks, Nathan I. Cherny, Kenneth, Sir Calman 2005
- Symptom Management in Advanced Cancer: Robert G. Twycross, Andrew Wilcock 2002 (武田文和訳 トワイクロス先生のがん患者の症状マネジメント 医学書院 2003 年)
- がんの痛みからの解放—WHO 方式がん疼痛治療法 世界保健機関/編 武田文和/訳 金原出版 1996 年
- 日本ホスピス緩和ケア研究財団のホームページにある E-ラーニング
(<http://www.hospat.org/>)
- ASCO 公式カリキュラム; がん症状緩和の実際 向山雄人, 内富庸介, 有吉寛, ヘスコインターナショナル 2003 年
- 6) ハンドアウトの有無
できるだけ用意する。
- 7) 講義で使用するメディアの種別
P C + プロジェクター

がんプロシラバス

種 別：緩和応用

科目名：疼痛マネジメント（応用編）

科目担当責任教員：

松島英介 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
心療・緩和医療学分野准教授 (em.lppm@tmd.ac.jp)
山田陽介 都立豊島病院緩和ケア科医長
(yosuke-y@toshima-hp.metro.tokyo.jp)

科目担当教員：

行田泰明 要町病院 緩和ケア部部長
永井英明 国立病院機構東京病院 緩和ケア病棟医長
林 章敏 聖路加国際病院 緩和ケア科医長
山口武兼 都立豊島病院副院長
伊藤恵子 都立豊島病院緩和ケア科

授業予定日 平成21年7月13日（月）～7月17日（金）

1) 授業の目標・概要

（1）授業の目標

がん患者に関わる医療者にとって、疼痛を初めとする様々な身体症状についての知識の習得は最も基本的なものであると同時に必須である。がん患者の訴える多彩な症状について幅広く理解し、適切な原因診断、治療ができるようにすることが目標である。

（2）授業の概要

一般病棟、在宅医療における疼痛緩和の実際についての解説に始まり、鎮静、臨死期の身体症状をはじめとする諸問題に対して、事例紹介を交えながらより実践的な知識を習得することを目指す。

2) 授業計画

7月13日(月) (担当：行田) 一般病棟・在宅における疼痛緩和の実際
7月14日(火) (担当：林) 鎮静・臨死期の諸問題
7月15日(水) (担当：山口) 転移性脳腫瘍・頭頸部腫瘍の緩和治療
7月16日(木) (担当：永井) AIDS患者の緩和医療
7月17日(金) (担当：山田・伊藤) 事例検討

- 3) 授業に際し学生の留意点
- (1) 授業への準備・予習
特になし。
 - (2) 他の授業との関連性
緩和医療における身体症状、疼痛マネジメント（基本編）との関連性が深いので是非受講して頂きたい。
 - (3) その他
すぐに実践できる知識を身につけることを目指している。
- 4) 学生への評価方法
出席状況、レポートまたは小テストによって評価する。
- 5) 教科書・参考書など
- Oxford Textbook Of Palliative Medicine (Oxford Textbook): Derek Doyle, Geoffrey WC Hanks, Nathan I. Cherny, Kenneth, Sir Calman 2005
- Symptom Management in Advanced Cancer: Robert G. Twycross, Andrew Wilcock 2002 (武田文和訳 トワイクロス先生のがん患者の症状マネジメント 医学書院 2003 年)
- がんの痛みからの解放—WHO 方式がん疼痛治療法 世界保健機関/編 武田文和/訳 金原出版 1996 年
- 日本ホスピス緩和ケア研究財団のホームページにある E-ラーニング
(<http://www.hospat.org/>)
- ASCO 公式カリキュラム; がん症状緩和の実際 向山雄人, 内富庸介, 有吉寛, ヘスコインターナショナル 2003 年
- 6) ハンドアウトの有無
できるだけ用意する。
- 7) 講義で使用するメディアの種別
P C + プロジェクター

がんプロシラバス

種 別：緩和応用

科目名：緩和医療におけるリエゾン精神医学特論

科目担当責任教員：

大久保善朗 日本医科大学大学院精神行動医学教授
(okubo-y@nms.ac.jp)

科目担当教員：岸泰宏 日本医科大学武蔵小杉病院精神科 准教授
伊藤隆雄 日本医科大学付属病院精神神経科 講師
上田諭 日本医科大学付属病院精神神経科 助教

授業予定月日：平成21年7月21日（火）～24日（金）

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

精神科以外の身体科に入院中の患者を身体科と精神科が連携して医療にあたるコンサルテーション・リエゾン精神医学を理解する。

(2) 授業の概要

がんの治療のために身体科に入院した患者が、うつ病やせん妄などの精神症状を呈することがしばしばあり、コンサルテーション・リエゾン精神医学のニーズは高い。本特論では、コンサルテーション・リエゾン精神医学の実践について、講義、クリニカルカンファレンス形式の症例検討等の聴講を通じて理解を深める。

2) 授業計画

7月21日（火）（担当：上田）

高齢者におけるコンサルテーション・リエゾン精神医学

7月22日（水）（担当：岸）

総合病院におけるコンサルテーション・リエゾン精神医学

7月23日（木）（担当：伊藤）

緩和医療とコンサルテーション・リエゾン精神医学

7月24日（金）（担当：大久保、岸、伊藤、上田）

クリニカルカンファレンスで症例を学ぶ。

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし

(2) 他の授業科目との関連性

6月に開講される「精神腫瘍学特論」は関連が深いので、是非受講していただきたい。

(3) その他

活発な質疑を期待しているので、積極的な姿勢で受講していただきたい。

4) 学生への評価方法

出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

日本サイコオンコロジー学会ホームページにある E-ラーニング
(<http://www.jpos-society.org/elearning/>)

6) ハンドアウトの有無

できるだけ用意する。

7) 講義で使用するメディアの種別

PC+プロジェクター

がん治療専門看護師養成コース

看護病態生理学

2単位（前期 木曜日 V時限）

本田 彰子（本学在宅ケア看護学 教授）
山崎 智子（本学在宅ケア看護学 特任准教授）
大木 正隆（本学在宅ケア看護学 講師）
樋野 興夫（順天堂大学医学部 教授）
植竹 宏之（本学応用腫瘍学講座 准教授）
新井 文子（本学血液内科学分野 講師）
森尾 友宏（本学発生発達病態学分野 准教授）
澁谷 均（本学腫瘍放射線医学分野 教授）
山田 陽介（都立豊島病院緩和ケア科 医長）
武田 祐子（慶応義塾大学看護医療学部 教授）

1. 科目の教育方針

様々な病態を呈するがん患者の診断・治療を理解することにより、がん看護に関連した専門的知識を深める。

2. 教育目標

- 1) がんの病態生理全般を理解し、現在わが国におけるがん治療を概観する。
- 2) がんの診断に関する理解を深めることを通して、主要ながんの病態生理を理解する。
- 3) がんの治療法に関する理解を深めることを通して、看護が専門的に関わる状態にある対象者の病態生理を理解する。

3. 教育内容

表に示す。

4. 教育の進め方、運営

講義を通して、がんの病態生理に関する知識を深める。講師の授業の進め方により、事例提示、主要テーマの文献検索、プレゼンテーション、ディスカッションを取り入れる。また、本学医歯学総合研究科「がん医療に携わる専門医師養成コース」で開講される関連科目を、教育内容を考慮し、必要に応じて聴講する。

5. 評価

授業への参加状況、及びレポート。

関心の深いがん看護領域において、疾病の病態生理の特徴から影響を受けて生じる療養上の課題を見出し、それに対応した看護援助方法を考案することをレポートの内容とする。

回	月 日	内 容		担 当
1	4月9日	がん病態生理概論		樋野興夫
2	4月16日			
3	4月23日			
4	4月30日			
5	5月7日	がん治療に伴う 病態生理	手術療法	植竹宏之
6	5月14日			
7	5月21日		化学療法・幹細胞移植	新井文子
8	5月28日			
9	6月4日		免疫療法	森尾友宏
10	6月11日			
11	6月18日		放射線療法	澁谷 均
12	6月25日			
13	7月2日		緩和ケア(症状コントロール)	山田陽介
14	7月9日			
15	7月16日	がんの遺伝学と先端的治療		武田祐子
16	7月23日			

在宅ケア・緩和ケア看護学特論A-1

2単位（前期後半 月曜日 I・II時限）

本田 彰子（本学在宅ケア看護学教授）

山崎 智子（本学在宅ケア看護学特任准教授）

大木 正隆（本学在宅ケア看護学講師）

宮本 真巳（本学精神保健看護学教授）

齋藤 やよい（本学生体生活機能看護学教授）

水野 道代（筑波大学大学院教授）

佐々木 吉子（本学先端侵襲緩和ケア看護学講師）

1. 科目の教育方針

診断・治療の時期より在宅療養及び終末期に至るまでのがん患者に対して、専門的看護援助を実践する基礎となる理論を理解し、対象となる看護場面で理論を活用する方法を身につける。

2. 教育目標

- 1) 診断・治療期の援助の基礎となる理論について理解する。
- 2) 急性期・回復期の援助の基礎となる理論について理解する。
- 3) 慢性期・在宅療養および終末期の援助の基礎となる理論について理解する。

3. 教育内容

表に示す。

4. 教育の進め方、運営

教育目標にあげた内容に適した理論に関する講義を通して、援助行為に通ずる基本的理論を理解する。講師の授業の進め方により、事例提示、分析、ディスカッション等を取り入れる。受講生の関心のある理論を用いて、実践事例の記述及び理論を用いた分析を行い、その経過及び結果を発表する。

5. 評価

授業への参加状況、及び事例分析を含めたレポート。

関心の深いがん看護領域において、疾病の病態生理の特徴から影響を受けて生じる療養上の課題を見出し、それに対応した看護援助方法を考案することをレポートの内容とする。

回	月 日	内 容		担 当
1	6月1日Ⅱ	コースオリエンテーション・コーピング		本田彰子・山崎智子 大木正隆
2	6月8日Ⅰ	診断・治療期の 援助の基礎となる 理論	意思決定理論	宮本真巳
3	6月8日Ⅱ		危機理論・危機モデル	
4	6月15日Ⅰ			
5	6月15日Ⅱ			
6	6月22日Ⅰ	急性期・回復期の 援助の基礎となる 理論	不確かさの理論	水野道代
7	6月22日Ⅱ		セルフケア・ケアリング理論	齋藤やよい
8	6月29日Ⅰ			
9	6月29日Ⅱ			
10	7月6日Ⅰ	慢性期・在宅療養 および終末期の 援助の基礎となる 理論	Loss&Grief	山崎智子
11	7月6日Ⅱ		ホスピスケアの理論	本田彰子
12	7月13日Ⅰ			
13	7月13日Ⅱ			
14	7月27日Ⅰ	実践事例分析及び発表		本田彰子・山崎智子 大木正隆
15	7月27日Ⅱ			

在宅ケア・緩和ケア看護学特論A-2

2単位（前期前半 金曜日 I・II時限）

本田 彰子（本学在宅ケア看護学教授）

山崎 智子（本学在宅ケア看護学特任准教授）

大木 正隆（本学在宅ケア看護学講師）

井上 智子（本学先端侵襲緩和ケア看護学教授）

蛭田 みどり（ケアタウン小平訪問看護ステーション所長）

1. 教育方針

本科目では、がんの罹患から、病院で侵襲的治療を受け、外来通院をしながらがんと共存し治療を続け、種々のサポートを受けながら生活し、さらに終末期に至るまでのがん患者の緩和ケアについての基本的な援助方法について学ぶことを目的とする。

2. 教育目標

- 1) 在宅・緩和ケアを必要とする人々の病態的な特性、がん治療・がん看護の現状を理解する。
- 2) 診断および治療に伴う問題の把握とその解決に向けた援助方法を理解する。
- 3) がん罹患に関連して様々な苦痛の把握と苦痛緩和に向けた援助方法を理解する。
- 4) 在宅ケアにおけるがん終末期看護について理解する。

3. 教育内容

表に示す。

4. 教育の進め方、運営

各単元の学習内容に沿った講義を受け、さらに事前に分担した内容について、研究論文及び実践事例報告等を検索し、その内容を講義に合わせてプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。最終レポートは、分担したテーマのプレゼンテーション内容をまとめるものとするが、講義やディスカッションの内容を含めた考察と、効果的な援助方法の発展に向けて意見を含めるものとする。

5. 評価

科目の評価は、出席、最終提出レポート、プレゼンテーション、ディスカッション参加状況により行う。

回	月 日	内 容		講 師
1	4月10日Ⅰ	がん看護・緩和ケア概論	がん治療およびがん看護の現状と今後の課題 緩和ケアの概念と緩和ケアの現状	本 田 彰 子
2	4月17日Ⅰ	診断・治療に伴う 援助	インフォームドコンセントと意思決定 診断時の援助	山 崎 智 子
3	4月17日Ⅱ		治療による苦痛と援助（手術療法）	井 上 智 子
4	4月24日Ⅰ		治療による苦痛と援助（化学療法・骨髄移植）	山 崎 智 子
5	4月24日Ⅱ		治療による苦痛と援助（放射線療法・免疫療法）	山 崎 智 子
6	5月8日Ⅰ		回復期の苦痛と援助 （セクシュアリティ・形態機能障害）（１）	本 田 彰 子
7	5月8日Ⅱ		回復期の苦痛と援助（２）	本 田 彰 子
8	5月15日Ⅰ	がん罹患に伴う 苦痛への援助	がん罹患とそれにまつわるコーピング（１）	井 上 智 子
9	5月15日Ⅱ		がん罹患とそれにまつわるコーピング（２）	井 上 智 子
10	5月22日Ⅰ		代替療法・相補療法の発展と今後の役割（１）	大 木 正 隆
11	5月22日Ⅱ		代替療法・相補療法の発展と今後の役割（２）	大 木 正 隆
12	5月29日Ⅰ	終末期ケア	緩和ケア病棟・ホスピスの実際と現状	蛭田みどり
13	5月29日Ⅱ		在宅ホスピスにおけるチームアプローチ	蛭田みどり
14	6月5日Ⅰ		家族・遺族への援助（１）	大木・山崎
15	6月5日Ⅱ		家族・遺族への援助（２）	大木・本田

在宅ケア・緩和ケア看護学演習 A

2単位（後期 火曜日 III・IV時限）

責任者 本田 彰子（本学在宅ケア看護学教授）
山崎 智子（本学在宅ケア看護学特任准教授）
大木 正隆（本学在宅ケア看護学講師）
阿部 恭子（千葉大学看護学部）

乳がん認定教育課程専任教員）

中島 恵美子（杏林大学保健学部看護学科 教授）
花出 正美（癌研究会有明病院がん専門看護師）
森本 悦子（聖隷クリストファー大学看護学部 准教授）
井上 智子（本学先端侵襲緩和ケア看護学 教授）
武田 祐子（慶応大学看護医療学部 教授）
石巻 静代（ケアタウン小平クリニック 医師）

1. 教育方針

本科目ではがん看護に関する現在の課題、およびアセスメントと援助について、看護実践の事例を通して言及し、関連する専門家や実践家の取り組みおよび見解、研究成果を含めた幅広い文献検討を活用した考察を行うことにより、客観的に実践を評価・検討する能力を習得する。

2. 教育目標

- 1) 文献による事例や自己の看護実践を通して、がん看護における課題を見出すことが出来る。
- 2) 演習事例分析に取り組み、効果的な支援方法について学ぶ。
- 3) がん看護の研究課題を見出す。

3. 教育内容

表に示す。

4. 教育の進め方、運営

学生の研究課題に関連した実践事例を提示し、発表とディスカッション中心のゼミ形式で進める。関心のあるテーマを考慮して、文献検討ディスカッションの準備を分担して複数の学生で協力して行う。また国内外の現状も含めた文献検討が求められるので、外国雑誌等を活用する。担当教員は、学生のプレゼンテーション時に内容にあった実践の提示及びコメントを提供することにより、学習を深める。

5. 評価

科目の評価は、出席、最終提出レポート、プレゼンテーション、ディスカッション参加状況により行う。

回	月 日	内 容		講 師
1・2	10月6日	がん患者のQOLについて：概説		本 田 彰 子
3・4	10月13日	がん罹患および療養に伴う意思決定	病名・病状の説明の受け入れ	山 崎 智 子
5・6	10月20日		治療法の選択	山 崎 智 子
7・8	10月27日		療養の場の選択	本 田 彰 子
9・10	11月10日		終末期における選択	大 木 正 隆
11・12	11月17日	治療初期における患者の家族の捉え方	外科的治療を受ける患者と家族	井 上 智 子
13・14	11月24日		患者・家族への対処プログラム	本 田 彰 子
15・16	12月 1 日	治療継続および社会復帰の時期の患者と家族の捉え方	化学療法を受ける患者と家族	中島恵美子
17・18	12月 8 日		放射線療法を受ける患者と家族	森 本 悦 子
19・20	12月15日	がん患者の形態機能における変化と受容QOLを高める援助	乳がん	阿 部 恭 子
21・22	12月22日		頭頸部がん	花 出 正 美
23・24	1 月12日		消化器がん	武 田 祐 子
25・26	1 月19日	セルフヘルプグループ・がんサバイバーへの支援		山 崎 智 子
27・28	1 月26日	緩和ケアにおけるマネジメントと援助	がんの進行に伴う症状緩和	石 巻 静 代
29・30	2 月 2 日		家族関係・療養環境調整	大 木 正 隆

在宅ケア・緩和ケア看護学特論 B

2単位（後期 月曜日 III時限）

本田 彰子（本学在宅ケア看護学教授）

山崎 智子（本学在宅ケア看護学特任准教授）

大木 正隆（本学在宅ケア看護学講師）

山田 陽介（都立豊島病院緩和ケア科医長）

大谷 木靖子（東京大学大学院特任助教・

昭和大学医学部付属東病院がん専門看護師）

濱口 恵子（癌研有明病院副看護部長・がん専門看護師）

松島 英介（本学心療・緩和医療学分野 准教授）

川越 厚（ホームケアクリニック川越院長）

川越 博美（訪問看護パリアン）

1. 教育方針

本科目では、緩和ケアと終末期看護の特定専門領域に焦点をあて、ホスピス、緩和ケアの歴史を踏まえ、現在の課題を明確にし、初発治療期から終焉までの緩和ケアの方略を探究する。

診断・初発治療期から生じる様々な問題、種々の症状への緩和ケアと自己管理、そして、終末期における療養環境のコーディネーションと家族へのかかわりを学習内容とする。また、これらの内容について、看護実践の国際的状況比較を含めた我が国の現状を理解し、看護実践の状況を把握しかつ課題分析を行い、専門的取り組みの必要性を理解した上で、具体的看護実践の提言をすることを学習方法とする。

2. 教育目標

- 1) 在宅ケア・緩和ケアを必要とする人々の看護実践上の課題を説明できる。
- 2) 在宅ケア・緩和ケアを必要とする人々の終末期における療養環境のコーディネートおよび家族看護の現状および、その看護実践上の課題を説明できる。

3. 教育内容

- 1) 教育目標の内容に沿って、現状と課題を見出すべく、関連文献を用いてプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。その際、領域専門の教育研究者、実践者より専門的視点からのコメントを得ることにより、現状および課題を統合し、今後の対応策を検討する。

4. 教育の進め方、運営、評価

テーマに沿った講義を受け、理論的基盤を修得する。

科目の評価は、出席、最終提出レポート、プレゼンテーション、ディスカッション参加状況により行う。

回	月 日	内 容		講 師
1	10月 5 日	緩和ケアの概念・緩和ケアの現状 全人的ケア		山田陽介
2	10月19日			
3	10月26日	在宅における療養 環境のコー ディネー トおよ び家族看 護	在宅終末期医療の実際とチームアプローチ	川越 厚
4	11月 2 日		終末期がん患者と家族への援助	川越 厚
5	11月 9 日			
6	11月16日			
7	11月30日		終末期がん患者の在宅療養支援	川越博美
8	12月 7 日			
9	12月14日		痛みのマネージメント その他の症状マネージメント	
10	12月21日			
11	1 月18日	サイコオンコロジーの視点でのアプローチ 生命倫理・DNR／セデーション／尊厳死		松島英介
12	1 月25日			
13	2 月 1 日	施設におけるターミナルケア ホスピス・緩和ケア病棟・一般病棟		濱口恵子
14	2 月 8 日			
15	2 月15日	チームアプローチ 緩和ケアチーム		本田・山崎 大木
16	2 月22日			

在宅ケア・緩和ケア看護学演習 B

2単位（後期 月曜日 IV・V時限）

本田 彰子（本学在宅ケア看護学教授）

山崎 智子（本学在宅ケア看護学特任准教授）

大木 正隆（本学在宅ケア看護学講師）

（協力施設臨床教授・臨床講師・専門看護師）

1. 教育方針

在宅ケア・緩和ケア看護学特論A・B、在宅ケア・緩和ケア看護学演習Aにおいて学んだ基本を基に、苦痛を体験している人とその家族への看護援助を効果的に行うためのアセスメントの方法を習得する。外来通院で緩和ケアを受けるがん患者・家族、施設ホスピスで緩和ケアを受けるがん患者・家族、在宅で終末期在宅療養し緩和ケアを受けるがん患者・家族の苦痛のアセスメントの視点を、実践を通して学び、アセスメント能力を高める。

2. 教育目標

- 1) 外来通院で緩和ケアを受けるがん患者・家族、施設ホスピスで緩和ケアを受けるがん患者・家族、在宅で終末期在宅療養し緩和ケアを受けるがん患者・家族の事例から、患者の治療・療養上の問題をアセスメントする基礎的能力を習得する。
- 2) 外来通院で緩和ケアを受けるがん患者・家族、施設ホスピスで緩和ケアを受けるがん患者・家族、在宅で終末期在宅療養し緩和ケアを受けるがん患者・家族に対する看護実践を通して、援助の方向性を見出し説明することができる。

3. 教育内容

表に示す。

4. 教育の進め方、運営

外来通院中の患者、施設ホスピスで療養中の患者、在宅で終末期在宅療養中の患者の健康問題（治療による苦痛、がん性疼痛、倦怠感など）とその家族について、アセスメントの基本的方法を学ぶ。実践を通して患者の健康問題をアセスメントし、収集したデータを系統的に分析し、アセスメントの視点を検討する。アセスメントの視点に基づき、患者の健康問題を包括的に検討し、援助の方向性を見出す。具体的には下記の方法を用いる。

ベッドサイドティーチング

- ・ベッドサイドにて情報収集の実践と連携施設看護師によるアセスメント実践指導。
- ・当該施設での看護計画に従った対象患者への看護実践。

学内演習（検討会）プレゼンテーション

- ・事例の情報の提示及びアセスメント。
- ・問題の明確化及び援助の方向性の提示。

5. 評価方法

1) 評価

指導者による評価、検討会によるプレゼンテーションと討議内容

回	月 日	内 容	講 師
1・2		緩和ケア・在宅 在宅療養中の時期にある事例の情報収集及び看護実践 (協力施設：訪問看護パリアン他)	施設担当看護師 (臨床教授・講師及び 専門看護師を含む)
3・4			
5・6			
7・8			
9・10		学内演習 (事例検討)	本田・山崎 大木
11・12		緩和ケア・施設ホスピス 施設ホスピスで療養中の事例の情報収集及び看護実践 (協力施設：都立豊島病院・癌研有明病院等)	施設担当看護師 (臨床教授・講師及び 専門看護師を含む)
13・14			
15・16			
17・18			
19・20		学内演習 (事例検討)	本田・山崎 大木
21・22		緩和ケア・外来 外来継続治療中の事例の情報収集及び看護実践 (協力施設：医学部附属病院・都立豊島病院・ 癌研有明病院等)	施設担当看護師 (臨床教授・講師及び 専門看護師を含む)
23・24			
5・26			
27・28			
29・30		学内演習 (事例検討)	本田・山崎 大木

在宅ケア・緩和ケア看護学実習

6単位

本 田 彰 子 (本学在宅ケア看護学 教 授)

山 崎 智 子 (本学在宅ケア看護学特任准教授)

大 木 正 隆 (本学在宅ケア看護学 講 師)

1. 教育方針

本実習はがん看護専門看護師受験資格を得る目的で設定されている。病院から在宅療養への全過程を通し、がん看護専門看護師としての基礎的態度、判断能力、実践能力を身につける。

2. 教育目標

- 1) 複雑な問題を持つがん患者・家族への専門的で高度な質の高い看護実践能力を習得する。
- 2) がん専門看護師の役割、調整、相談、教育、倫理調整について学ぶ。
- 3) 変化する社会情勢と保健医療の状況の中での役割開発をめざす。

3. 教育内容

1) 実習内容・実習計画

病院から在宅に移行する過程の援助（退院移行期）、外来治療を受けながら社会生活を送る段階の援助（外来通院療養期）、訪問看護における在宅での援助（ターミナル期）、といった3つの時期の実習から2つを選択し、高度な看護実践を行う。

またがん専門看護師が所属する施設においてがん専門看護師の指導のもとに専門看護師の役割（相談・調整・教育・倫理調整）について、見学・参画しながら学習する。

2) 実習指導体制・実習場

実習施設への依頼や実習内容の調整は担当教員と共に行い、実習施設指導者のもとで個別の実習指導体制を整える。

実習場：癌研有明病院・都立駒込病院・都立豊島病院・三井記念病院・千葉大学医学部附属病院他

ケアタウン小平クリニック・ケアタウン小平訪問看護ステーション

訪問看護パリアン

3) 実習方法

療養段階の3つの実習場所から2つ以上、3名以上の患者を受け持ち、がん看護専門領域の看護スタッフの指導のもと高度な看護実践を行う。（実習時期：1年後半）

がん専門看護師と共に行動し、その役割を実践体験する。（実習時期：2年前半）

4) 実習記録・レポート・評価

- ① がん看護実践への取り組み、態度
- ② 受け持ったがん患者の看護の実践・分析・評価についてのレポート
- ③ がん看護専門看護師の役割についての実践レポート
- ④ 今後のがん看護師の役割・教育のあり方に関するレポート

在宅ケア・緩和ケア看護学の実習目的と内容

実習目的	実習内容
がん看護専門看護師の大学院教育として必要とされる能力	病院から在宅に移行する過程の援助（退院移行期）、外来治療を受けながら社会生活を送る段階の援助（外来通院療養期）、訪問看護における在宅での援助（ターミナル期）、といった3つの時期の実習で、適切な専門的援助を行う。がん看護専門看護師としての役割について実践を通し深めていく。
1. 実践 がん患者・家族への卓越した看護実践を行う 2. 教育 看護職者に対しケアを向上させるための教育的機能を果たす 3. 相談 看護職者とのケア提供者に対する相談の役割を学ぶ 4. 調整 ケアが円滑に提供されるために保健医療福祉に携わる人々のコーディネーションを行う 5. 研究 専門知識・技術の向上や開発を図るために実践の場における研究活動に取り組む 6. 倫理 倫理的な葛藤が生じた場合、関係者間での調整を行う	学生が深めたいと希望する2つ以上の療養段階を選択し、患者を3名以上受け持ち、患者・家族への卓越した看護を目指した実践を行う。 専門領域の看護スタッフの指導のもとに、職員教育に参画する。 看護チームメンバーからコンサルテーションを受ける場面に参画し、専門領域の指導者と共にその実践を行う。 受け持ち患者のケアが円滑に提供されるために必要な、医師、薬剤師、看護職者、保健医療福祉に携わる人々との連携、調整をはかる。 がん看護専門分野において、専門知識・技術の向上や開発を目指し、取り組むべき課題を見出し、研究活動を実践する。 がん看護における倫理的な問題について、患者・家族・ケア提供者・関係機関の間に立って調整をするために実習指導者やスタッフと検討する場をもって実習する。

専攻教育課程照合表

専門看護分野：がん看護

※専門看護師希望者は大学院該当科目のすべてを履修すること。

	科 目	大学院該当科目	その科目の内容	履修 単位	申請 単位	認定 単位
専 攻 分 野 共 通 科 目	1. がんに関する病態生理学	看護病態生理学	様々な臨床像を示すがん患者の病態生理全般の知識を深め、あらゆる時期のがん患者のケアの改善及び開発に役立てる方略を学ぶ。	2		
	2. がん看護に関する理論	在宅ケア・緩和ケア看護学特論 A-1	専門的ながん看護を行っていく上で基礎となる主要理論(危機理論、ストレス対処理論等)について学び、さらにその活用を研究事例分析を通して探求する。	2		
	3. がん看護に関する看護援助	在宅ケア・緩和ケア看護学特論 A-2	病名・予後告知、治療の選択、診断・治療に伴う援助法、及び症状緩和などについてのアセスメント、援助法について、理論的理解を深めた上で、方法論を探求する。	2		
		在宅ケア・緩和ケア看護学演習 A	病名・予後告知、治療の選択、診断・治療に伴う援助法、及び症状緩和などについてのアセスメント、援助法について、実践具体例を通し、現状の課題及びその解決策を探求する。	2		
専 攻 分 野 専 攻 科 目	1. 化学療法看護					
	2. 放射線療法看護					
	3. 幹細胞移植看護					
	4. がんリハビリテーション看護					
	5. 疼痛看護					
	6. 緩和ケア	在宅ケア・緩和ケア看護学特論 B	がんの多様な症状に対する緩和ケアに関して、看護専門職としての関わりおよび具体的看護提供方法について、また、終末期における療養環境のコーディネート及び家族・遺族への看護について、研究成果分析・実践事例分析を含め、また、国内外の状況も踏まえた看護のあり方を検討する。	2		
	7. ターミナルケア	在宅ケア・緩和ケア看護学演習 B	がんの緩和ケアにおける諸問題、および在宅における終末期ケアに関する現在の課題について、看護実践事例を通して、専門家や実践家の取り組み、研究成果を含めた分析検討を行い、看護の課題を見出す。	2		
	8. 予防・早期発見					
実 習 科 目	実習	在宅ケア・緩和ケア看護学実習	がん看護専門看護師に必要な判断能力、基礎的態度、実践能力を養う。特に外来や在宅への移行(退院調整)、外来や在宅での継続治療、家で終末期を迎えること(在宅ホスピス)への看護支援に重点を置く。	6		
				申請単位数 ※18単位		

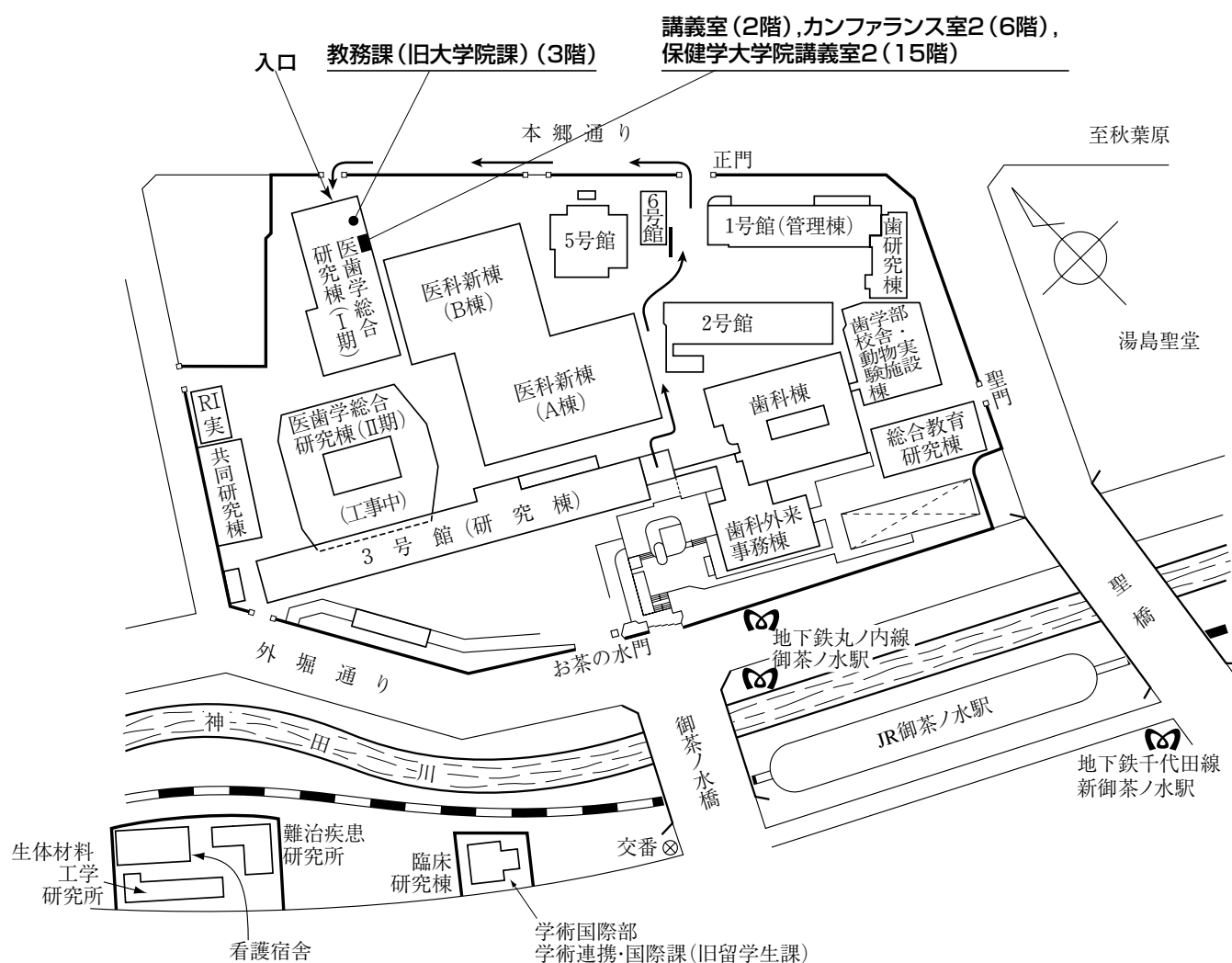
放射線療法専門医師養成コース
医学物理士養成コース
放射線治療品質管理士養成コース

種別：放射線基礎、放射線応用、医歯工学基礎、医歯工学医学物理
 科目名：下記の表の一覧表を参照のこと
 科目責任者：下記の表を参照のこと
 科目担当者：下記の表を参照のこと
 授業予定日：平成21年8月24日～10月23日（東工大と調整中）
 講義開催場所：東京工業大学田町キャンパス(CIC)

備考
 放射線基礎、放射線応用、医歯工学基礎、医歯工学医学物理、東京医科歯科大学医歯学総合研究科および東京工業大学医歯工学特別コースの共同開催となる。
 一部の科目は、講義種別にまたがる合同開催科目として取り扱う。

科目名	単位	科目責任者	科目担当予定者	講義概要
医歯工学概論	1	小杉	小杉幸夫(総理工)・高瀬浩造(医歯大)	医歯工学に関わる基礎的事項を説明し、医療を支える医学の特殊性、医療における診断の概要、治療方法の概要ならびに医療における倫理面の問題と対応方法について医学・工学の両面より論じる。
人体機能学	1	高瀬	平尾見三・三浦宏之・東條尚子・宗田大(医歯大)	人体の機能に関する解剖・生理・生化学的基礎を、循環生理、呼吸生理、運動生理、口腔生理の立場から、臨床面に重点を置きながら解説する。
人間安全工学	1	伊能	伊能教夫(理工)・宇治橋真幸(情報理工)・八木透(情報理工)・市村禎二郎(理工)・小栗慶之(原子炉)・小杉幸夫(総理工)	機械、化学、電気など各工学分野の立場から生体に対する安全性や、人間工学に対する考え方を論じる。
放射線物理学・放射線技術学特論	1	伊藤・保科	伊藤彬(癌研究所)・保科正夫(群馬県立医療大学)	技術としての放射線分野の基礎および応用について解説する。また、臨床における放射線防御についても解説する。
医用放射線診断学／腫瘍診断学特論	1	高瀬／大橋	大橋勇(医歯大)	放射線科領域における磁気・超音波を含めた診断技法の原理および概要を講じるとともに、それぞれの適応と臨床応用の実際についても論じる。
医用放射線生物学／腫瘍放射線生物学	1	高瀬／三浦	三浦雅彦(医歯大)	放射線が生物に対して与える影響について、分子レベル、細胞レベル、個体レベル、および集団レベルで論じる。また、病態・疾患との関連について講じる。
医用画像情報学(医歯工学)	1	大山・山口	大山永昭・山口雅浩・喜多紘一(像情報)・小高高史(総理工)	放射線画像やカラー画像機器における画像再構成技術、画像診断支援技術と、画像保存や通信などの画像管理におけるセキュリティ技術について講義する。
医療機器開発概論	1	小杉	瀬尾育武(駒澤大)・依田潔(エレクトラ)・齋藤吉毅(オリンパス)・大森健一(小林メディカル)・小川哲朗(ペンタックス)・井出勝久(医薬品医療機器総合機構)・吉川史郎(理工)・梶川浩太郎(総理工)・赤池敏広(生命)	医療機器の開発の現場で遭遇する諸問題(含GLP,GCP,GMP)について、各実務担当者が講じる。
放射線治療学／腫瘍放射線治療学特論	1	高瀬／澁谷	澁谷均(医歯大)	医療における放射線治療の意義とその応用範囲、線量測定・利用計画の方法論、他の治療法との関連および副作用・安全管理について論じる。
放射線治療物理学	1	河野	創造エネルギー専攻教員・非常勤(放医研)	医療用放射線の発生と計測法、照射装置の設計、線量測定の理論、線質測定の理論、小線源の線量測定、照射技術と線量計算(治療計画)、治療周辺装置、について詳しく論じる。
核医学物理学	1	金井	非常勤(放医研)	放射性薬剤の生産(製造、核種)、吸収縮量評価、試料測定技術、体外測定技術について論じる。
放射線医療実習	1	金井	非常勤(放医研)	Co照射装置による電離箱の絶対線量校正、水中線量分布の測定、小線源の線量測定、ガラス線量計による線量測定、などの線量測定技術の実習、および治療計画装置の実習。
医用放射線発生装置	1	小栗	服部俊幸(原子炉)・小栗慶之(原子炉)	放射線発生装置としての粒子加速器、原子炉システムについて、その動作原理と診断・治療・アイソトープ製造等、医療分野の応用例について解説。
人体解剖病態学	1	高瀬	江石義信(医歯大)・秋田恵一(医歯大)	医工学に必要な形態学を包括的に教授しながら、医学の基礎である肉眼解剖学および病理学を、人体にかかわるマクロとミクロの構造として理解することを目的とする。特に、構造にかかわる正常機能と機能異常について解説する。

本学構内案内図



連絡先：学務部教務課医学教務掛（旧大学院課教務第2掛）TEL 5803-5919